

プレスリリース【7, Sep, 2011】

DANCE × MUSIC × MOVIE !

JCDN コンテンポラリーダンス作品創造シリーズ vol.5

A S Y L | ア ジ ー ル

<http://www.jcdn.org/~dmm5/>

京都公演 11月18日19日 永運院

東京公演 12月10日11日 池上實相寺

企画・製作・主催：NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network (JCDN)
〒600-8092 京都市下京区神明町 241 オパス四条 501
TEL075-361-4685 FAX075-361-6225 jcdn@jcdn.org / <http://www.jcdn.org>

はじめに

6年前から JCDN 作品創造シリーズとして、振付家と音楽家がオリジナル作品をつくる < DANCE × MUSIC ! > を開始しました。シリーズ vol. 5 となる今回は、映像作家 < MOVIE > を加え、 < DANCE × MUSIC × MOVIE ! > として新たにスタートします。

作・演出・映像：飯名尚人、三味線・唄：西松布咏、振付・ダンス：寺田みさこ、の組み合わせで、2010年度から作品制作を開始しました。

2011年3月に京都・初音館スタジオで途中経過の発表を行ったことで、作品の中味や構成など再検討する機会が持てたことは大きなことでした。本年度11月には、京都でいよいよ世界初演を迎えます。会場も作品の内容に合わせ趣向を凝らし劇場ではなく、京都、東京公演ともに趣あるお寺で開催します。いま現在、完成を目前に制作過程中です。

このリリースは、作品制作のプロセス、方法論を生みだしていく考え方、そして、見所となるポイントを紹介致します。作品を生み出すまでの過程に、どのようなクリエイティビティがあるのかということをお紙/誌やWEBでご紹介いただくと幸いです。初演の幕が開く日まで、作品制作は継続していきます。

演出・映像の作品制作トピックスを紹介。

* 西松布咏さんに生まれて初めて英語の歌詞・ヘレン・メリルの『You'd be so nice to come home to』をアカペラで唄ってもらうという大胆な依頼。こぶしのきいた jazz song。

* 物語の断片を撮影して仕込んでおく。

- + 「家を燃したい」—とはいえそんな予算ないので却下。それではと、本物の家ではなく、文庫本で積み木の家を建て、庭の片隅で燃やして撮影。
- + 厚化粧をした女が、黒い涙を流しながら永遠にタバコを吸っている。
- + どこかに向かっているのか、逃げているのか、夜の京都の街を女が全速力で走っている。

これらのバラバラのムービーが、どのように物語に繋がっていくのか、乞うご期待。

アーティストにインタビューや、リハーサルの見学など可能ですので、是非、ご連絡お待ちしております。お気軽にお問い合わせください。

京都リハーサル 初音館スタジオ 9/11

東京リハーサル 森下スタジオ 10/18

*参考資料 【WEB】 <http://www.jcdn.org/dmm5/> には、出演者インタビュー、作品制作blog、記録写真、映像デモ版、CM映像、など参考データが掲載されています。

お問い合わせ先

水野立子 / NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network(JCDN)
JCDN office 075-361-4685/ mobile 090-6322-1393/jcdn@jcdn.org

project concept

history

2005 年より開始した <DANCE × MUSIC ! > は、ダンス作品をつくる上で、振付家が既存の楽曲を後から付け足すのではなく、音楽家と振付家が同じ地点に立ち、オリジナル作品を創作する試みとして、ダンスと音楽の新たな関係性に多角的にアプローチする作品制作を目的に開始しました。これまでシリーズ vol.4 7 作品を製作してきました。

オリジナルでない楽曲をダンス作品で使う場合、楽曲の 2 次使用に際して原盤権の高額な負担、使用許諾を得ることの困難さから、舞台上演以外のメディアの中で波及させる事は難しい状況でした。しかし本シリーズの取り組みでは、音楽がオリジナルである事でダンス作品のメディア化（DVD 製品など）が実現し、ダンスの流通促進の発展に繋がっていきました。

2008 年度は、舞台ダンス作品として制作された “THEATRE version” と、全シーンを撮影、映像的演出を加えリメイクした “VIDEO DANCE version” との 2 枚組 DVD を製作発売。舞台作品では味わえない映像的なおもしろさをプラスしたことで、親しみやすい “ダンスムービー” を誕生させました。

このように、本シリーズ <DANCE × MUSIC ! > の発展的な継続は、ダンスの舞台芸術作品として、又、ダンスとメディアのアプローチの巾を押し広げてきました。

approach of this year

これまでの実績と成果を踏まえ <DANCE × MUSIC ! > に “MOVIE” を新たに加え、新シリーズ <DANCE × MUSIC × MOVIE ! > とし、映像作家の視点を加えた作品制作をスタートさせます。

特筆すべき点は、美術展やインスタレーションなどのメディア・アートとしての映像の在り方とは違い、今まで舞台作品で実現できなかった “映像的解釈の視点を持った振付・演出” をプラスすること、ダンス映画を作品の中に導入するという画期的な手法を用い、ダンス作品の新しい展開が期待できることです。

近年、ダンスと映像は様々な試みが行なわれ、中でも欧米諸国では “ビデオ・ダンス” として親しまれ、専門のフェスティバルが多数開催されています。ダンスに映像的演出を加えることで、従来のダンス作品の解釈や演出の巾を広げ、さらに映画というエンターテインメントの要素もプラスされ、新鋭アートジャンルとして着目されています。

本作品は、舞台作品とダンスムービー両方の要素をもつ先駆的な作品の見せ方が施されています。

日本のコンテンポラリーダンス作品が、世界輸出されるような質の高い作品として発展していくために、音楽家と振付家そして映像作家との新たなコラボレーションワークを加え、ダンス・音楽・映像各ジャンルのアーティストが、オリジナルの手法と演出を生み出し、質の高い作品制作を展開します。

project in detail

Point 1 casting

2008年<DANCE×MUSIC！>シリーズ vol.3で“VIDEO DANCE version”の撮影・編集・監督をおこなった映像作家の飯名尚人が、今回は、作・演出・映像ディレクションを担い、新作「ASYL!アジール」の作品制作に取り組みます。

飯名尚人は、Dance and Media JAPAN を設立し、ダンス・パフォーマンス・演劇とメディアとのユニークなコラボレーションワークが注目され、海外から多くのエンタリーが集う“DMJ 国際ダンス映画祭”を7回主催しています。

プロデューサーとしての活動と並行して、2009年より本格的に演出家・作家として始動。同時代性の強い作品コンセプトをリアルに描く手法を持ち、ダンスに対するユニークな洞察力で、何よりも映像的演出に裏打ちされた独自の視点は、シリーズ初の DANCE×MUSIC×MOVIE！の作・演出・映像の最もふさわしい作家として新作制作に挑みます。

MUSIC には三味線・江戸唄の古典から、先駆的な現代アート、舞踏・現代詩人とも競演が多い西松流家元、邦楽家・西松布喙。前衛詩人・北園克衛の詩もレパートリーとし、自身の作詞・作曲もある。江戸時代の文化や生活、江戸の女性の恋心を小唄、端唄の詩にのせて、現代に語り継いでいます。

DANCE には、高いダンステクニックと、そのオリジナルなムーブメントに定評のある寺田みさこ。コンテンポラリーダンスの新時代をつくった振付家・ダンサーとして独特なその動きは、美しいだけでなく一度みたら忘れられない華と毒を持つ。

これ以上ない組み合わせの振付家と音楽家、そして映像作家とが、それぞれの専門性をもって、舞台芸術作品の新たな1ページをつくりだします。

Point 2 special approach

+ 音楽とダンスの距離をつくる

音楽やリズムに振付することが本来のこの企画趣旨。

そこをあえて「音楽に振付しない」方法論をとると、演出家飯名が提案した。

古典や伝統芸能のリハーサルでは、それぞれが完成した技を携えて、公演直前のリハーサルを行うだけで公演を成立させてしまう。ハイレベルのセッションと、計算された即興。

今回の振付家：寺田（京都）と音楽家：西松（東京）も事前打ち合わせなしで、音楽とダンスの距離を保ちつつ、ぎりぎりまで個別につくりあげていく。ある時期がきたら、音楽とダンス、映像を初めて合わせる。そこには、予定調和ではないズレが生じてくるはずだ。三味線の演奏と唄のズレ、音楽とダンスのズレ、映像とのズレ。距離感があるからこそその「間」を生み出す。

++ コンダクターは演出家—プロット・シナリオありきのクリエイション。

作品全体の物語や演出プランを演出家から個別に音楽家、振付家に伝える。そうすることで、音楽家と振付家と同じ核にむかい別々につくりあげていくことが可能となる。相手のいないコラボレーションを不安感なしに行うためには、作品が明確でなければならない。

つまり作家・演出家のクリアーなプロット、ストーリー、シナリオが必須。

ダンス作品の作品制作方法としては、まだ珍しいこの手法が要となる。

+++ 会場

縁切り寺をイメージした情緒あるお寺を選んだ。

障子をスクリーンに見立て、4面の大画面でダンス映画の演出効果を狙う。

イメージたわわなムービーと江戸唄と三味の音、そしてダンス。劇場での上演とは一味違った演出を楽しんでもらおうという試み。開催時期を秋の紅葉シーズンに合わせ、過去にタイムスリップしたような古都京都の永運院と、東京は歴史ある池上寛相寺で開催。

作品「ASYL | アジール」について

～ 過去は煙。燃えているのは今。私はなぜ逃げて来たのか。～

江戸時代に実在した縁切寺は、わけあって男から逃げて来た女のアジール（避難所）縁切寺に逃げて来た或る女の過去と現在。

三味線、唄、ダンス、映像が、幾十にも織り合い描き出す幻想的な物語。

作・演出・映像：飯名尚人 / 三味線・唄：西松布咏 / 振付・ダンス：寺田みさこ

【あらすじ】

舞台は、西松布咏の江戸唄、三味線の演奏から始まる。お座敷芸のようなトークと演奏。歌詞の意味や時事問題などをお座敷芸を楽しむお客さん（実際のお客さん）に対して語りかけ、演奏に織り交ぜて物語は始まる。いつの間にか、映像やダンスが加わり、フィクションの世界に入り込む。男との縁を切ってくれるお寺、縁切寺に逃げて来た女の物語が始まるのだ。

逃げて来た女は、男に騙されひどい目にあった女……と思いきや、男を殺し、家ごと燃やして逃げて来た悪女であった。

女はなぜ男を殺して逃げて来たのか・・・？

映像のモチーフとして頻繁にあらわれる「煙草の煙」は何を意味するのか・・・？

【作品解説】

タイトル「アジール」は、歴史的・社会的な概念で「聖域」「避難所」などを意味し、聖地である社寺や教会も含むという。江戸時代、離縁したくてもできない弱い立場の妻を救済し、夫と離縁させてくれる「駆け込み寺」として縁切寺＝アジールが存在しました。離縁するための「三行半」の書き方や作法がある一方、江戸の女性は想像とは違って、どうも弱い立場だけではなかったようです。男と別れたいが為に、したたかに縁切寺を利用したという史実もあり、どこか現代に通ずる女性の恋愛観も見え隠れします。

今回の音楽家である西松布咏さんの演奏する三味線や小唄は、今でこそ格式高い伝統芸能ですが、江戸時代当初は大衆的な流行歌・ポップソングとして親しまれていました。この作品は、偶然引き寄せられた恋愛の避難所「アジール」としての縁切寺をモチーフに、いつの世でも普遍的な大衆の心を掴む「恋愛」を作品のテーマに据えました。

現代人にとって「アジール」は、どこを意味するのでしょうか。自らを守ってくれ浄化される聖域 アジール。恋愛のためだけでなく、いろんな意味の「アジール」を私たち現代人は、求めているように思います。

東京公演 2 日目のみ、縁切寺満徳寺資料館館長である高木侃氏をお招きしイベントトークを行います。タイトルは「女と男の縁切り作法」。まさに現代女性の恋愛処世術に必聴です。

公演概要

プロジェクト タイトル : DANCE × MUSIC × MOVIE !

JCDN コンテンポラリーダンス作品創造シリーズ vol.5

作品タイトル : 「ASYL」アジール

作品クレジット :

作・演出・映像 : 飯名尚人

三味線・唄 : 西松布咏

振付・ダンス : 寺田みさこ

友情出演 : 今村達紀

開催日時 : 会場 :

京都公演/永運院 : 11月18日(金) 19:30 開演 19日(土) 17:30 開演

東京公演/池上寶相寺 : 12月10日(土) 17:30 開演 11日(日) 17:00 開演

毎回終演後にアーティストトークあり。

11日のみトークイベント 高木 侃「女と男の縁切り作法」開催。

高木 侃 プロフィール

太田市立縁切寺満徳寺資料館館長。法制史学者、専修大学法学部教授。近世の離婚研究で知られる。著書に、「三くだり半 江戸の離婚と女性たち」(平凡社ライブラリー)「三くだり半と縁切寺 江戸の離婚を読みなおす」(講談社現代新書)「泣いて笑って三くだり半 女と男の縁切り作法」教育出版「三くだり半からはじめる古文書入門」

- * 受付 開演の1時間前 / 開場 開演の15分前 / 受付時に入場整理券を配布します。
- * 未就学児の入場はご遠慮いただきます。

チケット料金 :

料金 : 一般前売 3.500 円 / 当日 4.000 円 / JCDN 会員と学生 (共に前売のみ) 3.300 円

*チケット購入方法 :

【カード・オンライン決済】 JCDN ダンスオンラインショップ <http://jcdn.shop-pro.jp/>

【銀行または郵便振込】

JCDN 事務局への電話、メール、JCDN ダンスリザーブ (ダンスオンライン予約)

<http://dance.jcdn.org/> でご予約いただいた後、チケット代金をお振込みいただきます。

(振込手数料はお客様ご負担)

振込先：

*銀行 みずほ銀行 京都支店(店番号 430) 普通 口座番号 8055474
口座名称 トクヒ) ジャパン コンテンポラリーダンス ネットワーク
*郵便局 郵便振替口座番号 00980-3-137183 口座名称 JCDN

*本公演はお寺での上演のため、東京公演 1 日 100 席、京都公演 1 日 80 席とお席に限りがございます。前売券が完売しますと当日券をご用意できなくなりますので、事前購入のご協力をよろしくお願い致します。

会場アクセス：

永運院 京都市左京区黒谷町 33 TEL075-201-4176 (公演当日のみ)
最寄りバス亭「岡崎道」「東天王町」より徒歩 15 分
永運院は、“黒谷さん”という愛称で親しまれている金戒光明寺の一画にあります。
紅葉シーズン中のため道路が大渋滞します。時間の余裕を持ってお越しくださいませ。

池上實相寺 東京都大田区池上 2-10-17 TEL03-3751-4056 (公演当日のみ)
東急池上線池上駅より徒歩 15 分
地下鉄都営浅草線 西馬込より徒歩 10 分
東急バス<五反田 川崎駅>で、「本門寺裏」下車 徒歩 2 分

企画・製作・主催：NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN)
共催：初音館スタジオ 助成：財団法人アサヒビール芸術文化財団 協賛：資生堂
協力：公益財団法人セゾン文化財団

総合問合せ：

NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network (JCDN)
〒600-8092 京都市下京区神明町 241 オパス四条 503
TEL075-361-4685 FAX075-361-6225 jcdn@jcdn.org / <http://www.jcdn.org>

寺田みさこ / 振付・ダンス (京都)



京都造形芸術大学 舞台芸術学科 准教授

1987年より石井アカデミー・ド・バレエに所属。1991年より砂連尾理とユニットを結成。2002年3月『第1回TORII AWARD』大賞受賞。同年7月「トヨタコレオグラフィアワード2002」にて、「次代を担う振付家賞(グランプリ)」「オーディエンス賞」受賞。2006年以降ソロ活動も開始し、山田せつ子、山下残、白井剛振付作品などに出演。2007年、初のソロダンス公演『愛音』をシアターラム、びわ湖ホールにて上演する。京都造形芸術大学舞台芸術学科准教授。

西松布咏 / 音楽：三味線・唄 (東京)



実践女子短期大学国文科卒。6歳より長唄、三味線の手ほどきを受け、邦楽のとりこになる。小唄、新内等、作詞・作曲を修業。1984年、地唄の名人・西松文一に見いだされ、地唄の修業を始める。86年、「秘すれば唄」リサイタルを開催。90年に西松文一が急逝、翌年、布咏の名で西松流を継承した。93年、ニューヨーク、ベルリン、ポツダム、ケルンでの、地唄公演に参加するなど、海外の活動も多い。CDに「SILK SOUL」「CRESCENT MOON BLUES」がある。

飯名尚人 / 作・演出・映像監督 (東京)

演出家、映像作家。2003年よりプロデューサーとしてDANCE AND MEDIA JAPANを立ち上げ舞台とデジタルテクノロジーの実験的企画に取り組む。国際ダンス映画祭、マムシユカ東京、MEDIA FARM、ポストシアターなど数多くの海外アーティストとの連携企画を国内外で開催。2008年より自身のパフォーマンスグループ『marga』を立ち上げ演出、脚本、映像、音楽、照明を手掛ける。東京造形大学映画領域非常勤講師、名古屋学芸大学非常勤講師、座高円寺劇場創造アカデミー講師。

<http://dance-media.com/>

<http://performative-performance.com>

